

平成 28 年度 第 2 回 長野市立博物館協議会 議事録

日 時 平成 28 年 11 月 30 日(水) 午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分
場 所 長野市立博物館教室
出席委員 立岩会長・宮下副会長・相澤委員・東福寺委員・山口委員

1 開会

2 館長あいさつ

3 協議事項(議長 立岩会長)

(1) 博物館の使命及び収集方針について(原田係長)

(立岩会長)「博物館の使命について、『結び目』とあるが、新しく考えたものか。」

(陶山主査)「そうです。1 年ほど前から分館と本館で集まり、古くに引きずられずに新しいメンバーで新しいことを、ということで考えた。」

(立岩会長)「相澤委員、地元としてどう思うか。」

(相澤委員)「すごい。北信で、というのが新たに出ているのが大切であり、すごいなと思う。私も市長に活性化の提案をした一員だが、更北の中で博物館をアピールしたい。もっとグローバルにみて、ローカルに実践したい。今角川映画で『一茶の映画』を北信を舞台にやっている。全国で話題になると思う。箱膳の関係で情報が入っている。このままではもったいないので、北信の庶民の暮らしがわかるようなことを、それと関連してやってほしい。」

(立岩会長)「北信としていった方が良いということか。」

(相澤委員)「そう。ここはインター近くで長野市の玄関口であるが、北信の玄関口でもある。」

(宮下副会長)「北信という視点はよい。合併をし、長野市の隣が妙高市となったほどだから。フォッサマグナは北信の形成に大きく影響しているし、大きな視点をもつことがよい。これからはこれをどう実践していくかだと思う。収集方針も絞り込んである。善光寺も川中島もフォッサマグナ地域を包括しているもの。あとは「山」をどうするかという点だと思うが、よく絞られている。具体的にどうするか、がこれからの課題だと思う。視点はよい。北信のリーダーとしての方向性が出ている。」

(立岩会長)「パートナーとしてはどうか。」

(東福寺委員)「私はシニア大学を卒業していて、まとめることなどを行っているが、その関係で県に呼ばれて 400 人ほどに話すことになった時、私は一般人で、主婦な

ので、社会に出て一番何をしたらろうと考えたら、私は一番は長野市立博物館のボランティアかなと思い、博物館のことを話した。私はまず、皆に長野市立博物館を知っているか聞いたところ、数人しか知らなかった。残念に思い、400人に竹下さん（職員）からもらった看板を使って話をした。興味を持ってくれた人がいて、7～8人がパートナーになって活躍してくれている。効果があってよかったと思っている。」

- (立岩委員)「山口さん、子どもという立場として、博物館についてどうか。」
- (山口委員)「SNSは良い。便りなどは忙しいと見ないが、フェイスブックやツイッターはよく見る。メールなどでイベント予約できればもっとよいと思う。子ども達は博物館でこんなことしたと言ってくれるが、私はなかなか来られない。」
- (立岩委員)「財源的なところはどうか。現実的にその方針でやるにはお金が必要。総花的でなく、このように絞るという方針は財源的に難しいということか。」
- (原田係長)「リニューアルもあって、そのように考えた。」
- (大蔵館長)「リニューアルが必要だが、それには財源のことも考えていきたい。」
- (立岩会長)「前からリニューアルをしなければならぬと思っているが、上に持っていったと聞くが。どうか。」
- (大蔵館長)「公園の駐車場から博物館が見えないので、公園と一体でリニューアルを考えるべきという方向になった。一体となって進めるために公園緑地課と協議をしている。お金が億単位でかかることなので、すぐには進まないのが正直なところ。今は博物館が所管する施設が非常にたくさんあり、本館だけでなく全体で考える必要がある。集約も踏まえてリニューアルを考えたい。長い目で見てご助言をお願いしたい。」
- (立岩会長)「一体となるのは良いことだと思う。合併によって人と金がかかる。個人的には一ヶ所に集めてここにすれば全てわかるという方向も手ではないかと思う。地域は大切だが、金・人が限られる中では、『結び目』としての役割の1つとして、そのようにするのもよいのでは。なにせよ、お金がかかるが、見通しはどうか。」
- (大蔵館長)「すぐにできる状況ではない。都市整備部は、城山公園の改修が最優先である。」
- (立岩会長)「良いタイミングかと思う。城山公園の次にどうするかという時に、こういったものをもってぶつけていくのも手だ。(宮下副会長に対して)どうか。」
- (宮下副会長)「社会が縮小傾向にある中で、大きな問題だと思う。市民ファーストで、粘り強く意見を出して行ってほしい。城山公園の次に載せるためにも、あきらめずに。博物館は時代によって位置づけが変わるが、市民の思いの中にあるということについては変わらない。」
- (東福寺委員)「災害から収蔵品を守るというところ、大切だと思う。いつでも、地震はありえる。神城断層地震の時の被害はどうだったか。」

(大蔵館長)「特に鬼無里が一番被害が大きかった。天井が壊れ、しばらく休館した。戸隠と信州新町ではひび割れ被害などがあつた。本館はたいしたことはなかつたが、展示表示の落下などがあつた。」

(立岩会長)「耐震はどうか。」

(大蔵館長)「本館については、耐震診断を行い、構造物に関しては、十分だったが、非構造物が弱い。分館も基本的に大丈夫である。」

(相澤委員)「一番期待しているのは、常設展について。年間通しての魅力ある常設展を。これは本当に大切に、毎年同じだと家族連れは来ない。私の立場でも、常設展に人を引き寄せたい。」

(立岩会長)「みんなの意見を参考に検討してほしい。」

(2) ミュゼ蔵について (大蔵館長)

(立岩会長)「信州新町の文化を守る会の署名、これはミュゼ蔵だけの問題だと思うが、なぜ化石館も上がっているのか。」

(大蔵館長)「よくわからないが、4～5年前、化石館について話に出たこともあつたが、一時的でそれは消滅している。」

(立岩会長)「ミュゼ蔵だけではなく化石も話に出すという意図だったのか。」

(大蔵館長)「化石に関しては良くわからない。」

(立岩会長)「5年間 (の契約) は決まったことか。」

(大蔵館長)「そうである。」

(立岩会長)「地元の意見なら、私たちには言いようのないことでもある。」

4 その他

(相澤委員)「今年は、企画展でのぼり旗を作つた。好評で公民館や直売所に立てた。パートナーなども盛り上げようと語り部のものも作つた。ボロボロになつたのもあるが、今後もやりたい。レンタサイクルも観光のために始めた。今年度は子どもたちに伝えるため、更北の食に関するレシピなどを載せた本を作つた。自治協 (住民自治協議会) で作り、風土や産業について入れた。昭和初期の暮らしを紹介している。これから、もっと厚くしていきたいので、博物館と連携していきたい。」

(立岩会長)「地元としての協力を感謝している。」

5 閉会